

令和5年度 日本臨床内科医会中国四国ブロック代表者会議

新型コロナウイルス感染症の流行により、中国四国ブロック会議は令和2年度は中止、令和3年度、4年度はWeb配信となっておりましたが、今年度は島根県が当番県となり、4年ぶりに対面での会議となりました。当初7月9日の予定でしたが、前日からの豪雨のため延期となり、9月10日（日）にホテルグランヴィア岡山で開催いたしました。

当日、日本臨床内科医会本部、日本医師会、中国四国各県から総数33名が集まり、島根県からは小林祥泰会長をはじめ、星野潮、能美一政、大居慎治、伊藤健一の5名が出席しました。

議題、講演会については別紙次第および資料をご参照ください。

(1) 日本臨床内科医会中央情勢について

高齢化に伴い会員数が減少し続けていることが課題ではありますが、各種学術集会の開催、かかりつけ医のためのWeb講座など積極的に行われていること、今後IT委員会を充実させること、定款の改訂などの説明がありました。

(2) J-DOMEについて

糖尿病や高血圧患者さんのデータベースを構築し、よりよい診療のための情報提供と研究分析を目指すJ-DOMEにつき、日本医師会から説明があり、引き続きの協力要請がありました。

(3) 中国四国各県内科医会の活動報告

各県でホームページやパンフレットによる会員増強の取り組みに力を入れており、学術講演会の開催、発刊物、ホームページの充実などの取り組みにつき報告がありました。

島根県では学術講演会の開催、ホームページに海外論文のトピックス紹介を定期的に行っております。

(4) 次期診療報酬改定の要望

初・再診料について、オンライン資格確認の義務化について、救急医療管理加算について、ほか様々な要望が提出されました。

(5) 日本臨床内科医会への要望

かかりつけ医機能の制度整備に関連して日臨内でも一歩先んじた対応を

求める意見、オンライン資格認証の導入による医療機関の負担、トラブルなどについての検証を求める意見などが提出されました。

(6) 医療 DX について

前もって会員にお願いしていた医療 DX に関するアンケート結果をもとに、オンライン資格確認のメリット・デメリット、電子処方箋についてなど意見交換が行われました。

講演会「臨床内科の過去、現在そして未来へ」

日本臨床内科医会・菅原正弘会長により講演をいただきました。臨床内科医会の設立から歴史、過去の活動内容、会員数の推移、臨床内科医に必要な知識、社会的役割、医学研究活動などについてお話がありました。